

QSK

2011年
1月15日

GENKI



発行：九州障害者定期刊行物協会 (QSK)

〒812-0069 福岡県福岡市東区郷口町7-7

編集：特定非営利活動法人

定価100円

北九州自立生活センター

〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借2丁目5-19

自立生活センター(事務局) / (093)541-5000

小規模作業所GENKI / (093)541-0130

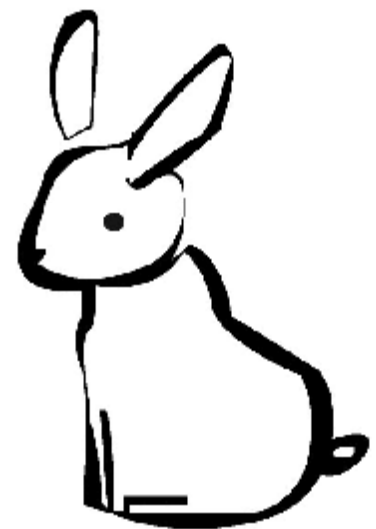
介助事業所GENKI / (093)541-0137

共通FAX / (093)541-5770

E-mail: cil-kita@hyper.ocn.nc.jp

あけまして
おめでとう
ごぞいます

今年もよろしくお願ひします



本号の主な内容

- ◎目 玉 代表の挨拶、理事の挨拶
- ◎事 業 メインストリート・プログラム
- ◎エッセイ 障害者差別禁止条例 in 大分
北九州小規模連『利用者交流会』
夜間中学について、障害者週間
- ◎そ の 他 スタッフみんなの今年の抱負
障害者スポーツセンターに望むこと
介助事業所GENKI

継続・新規の
センター会員を
募集します

新年のあいさつ

新年のご挨拶

代表 林 芳江

新年明けましておめでとうございます。

この年末年始には寒波がやってきて、北九州では幸いにも大雪になりませんでした。地域によっては雪景色も見られたようです。でもこの寒さが昔は普通の気候だったよね、と懐かしく妙に年寄り気分にもなりました。私の初詣は今年一年の無事を祈り、電動車いすのために交通安全のステッカーを買いました。いつもはそんなことはしないのですが、今年も東奔西走の一年になることを予期し、車いすと、もちろん自分の心身も大切にしようと思った気持ちの現われでした。

さて、**2011年**はある意味障害福祉業界にとって狭間の年にあたります。内閣府に設置された『障がい者制度改革推進会議』では、障害者基本法の抜本的改正案の提出が予定されています。障害者の社会的な位置づけや、障害の概念の見直しが盛り込まれていくことでしょう。そして継ぎ接ぎの様な制度の矛盾を見直す基を整え、**2012年**障害者総合福祉法で具体的な各制度を組み立て直していく流れになっています。これらに関する情報は、遂次インターネットで配信されますが、私も必ずしも追いつけません。しかしこのごろ現場で、最も感じていることは『格差』という問題です。情報や支援者との出会いが無いが故、制度の該当が無いが故に、諦めている人々とたくさん出会いました。このような状況が法改正、制度改正に反映されるように意見を伝えていかねばなりません。いま、制度が使えている人や、生業にしている立場の人が、周辺にある諦めの状況を明らかにしていくことが大切な年ではないかと思っています。障害者だからと言って頑張り過ぎず、頑張ることを忘れ去ったり、頑張りたくても外されること無く、ちょうど良く頑張れば自立生活ができる社会は、誰にとっても希望が持てる社会ではないかと思っています。

最後になりましたが、今年も北九州自立生活センターの運動と事業に皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。



役員を代表してご挨拶

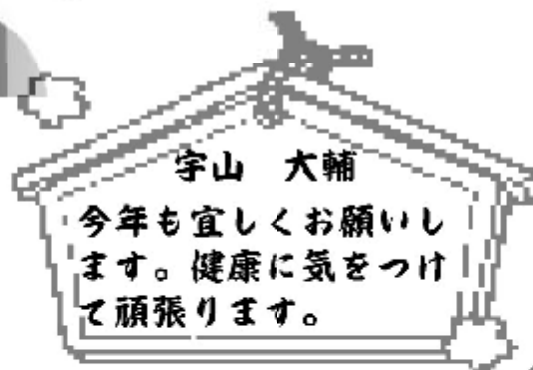
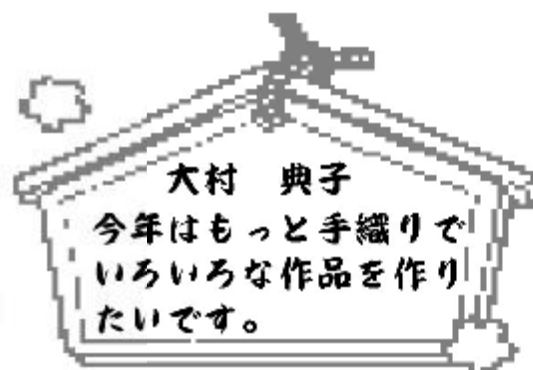
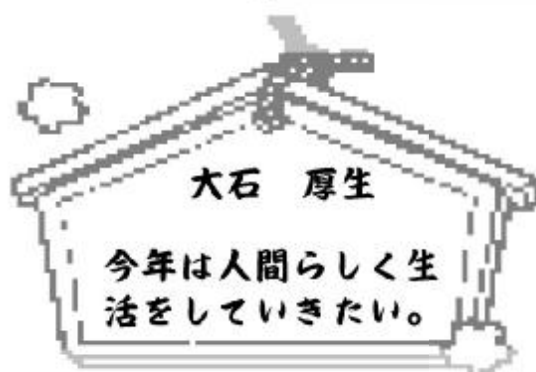
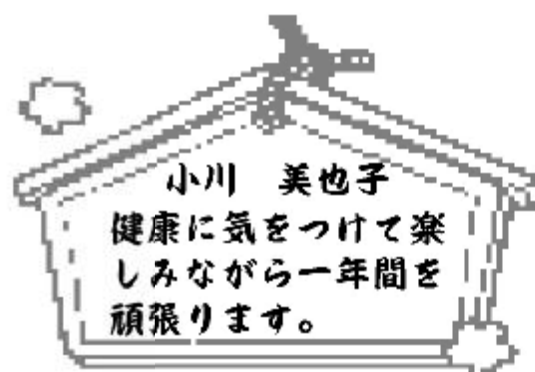
理事 佐藤 カヨ子

昨年は理事になったとはいえ、不慣れなために何をすればよいのかも分からず、ただうろうろするだけだったような気がします。今年は障害を持つ人の自立生活支援のために、できること・やらなければならないことを楽しみながら取り組んでいきたいと思います。

理事 池永 美奈

昨年は日まぐるしく色々なことが目の前を通過して行き、立ち止まり考える事もままなりませんでした。今年はいき年(うさぎ年)にちなみ、大きな耳で人の意見や社会の情報をキャッチし、広い視野で現在の状況や今後の方向性をしっかり見据えて行きたいと思っております。

今年の抱負



スタッフの抱負とシリーズエッセイ

今年の抱負



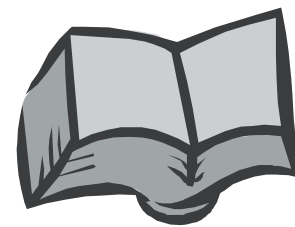
シリーズエッセイ



夜間学級スケッチ①

佐藤 カヨ子

これから夜間中学や夜間学級について折々に書いていきたいと思います。第1回目は、なぜ、私が夜間中学にこだわっているのか?についてです。私は1949年生まれ、先天性の二分脊椎症という障害があり、立つこと・歩くことができずに成長してきました。当時重い障害を持つ子どもは就学免除とされ、義務教育を受けることができなかつたのです。未就学・無学歴だった私ですが、17歳の夏、障害児の治療施設で養護学校の分校に入学でき、小・中学校合わせて2年4ヶ月程、これが私の受けた義務教育の全てです。後に定時制高校や夜間大学に学ぶことができましたが、20歳から定時制に入るまでの学力・学歴コンプレックスは障害自体よりも私を苦しめたような気がします。つまり、もし近くに夜間中学があれば、私が真っ先にいきたくつたというのが答えです。



12月3~9日障害者週間

啓発イベントに皆でGO！！

小川 美也子

今年度も障害者週間啓発事業のイベントが、12月4日(土)に小倉駅のJAM広場で行なわれました。今回のテーマは、「障害者の人権」です。たとえば、上下の階へ移動する場合、エレベーターで乗降する時に順番を守るのはルールなのですが、歩いて体力のある人は階段やエスカレーターで移動できます。でも車イスは、エレベーターでしか移動できません。しかも介助者同伴の場合は、何時から何時までという介助者の支給時間が制限されています。エレベーターを乗降する時には、障害者が優先される場合がある事を解って頂き、障害者の人権について一緒に考えて貰いたいと、今回のテーマにしました。昨年同様JAM広場にパネルを展示、30年前くらいから現在までの障害を理由とした差別の歴史をパネルで紹介。今回初めての試みで、通行人を巻き込んだ街頭インタビューを行い、インタビューに応じてくれた方にはボールペンを手渡し、そして恒例のチラシも配りました。

今回は、大勢の皆さんに読んでいただけるように思考を変え、チラシと、ティッシュをセットにして配布。ティッシュ効果でしょうか？前回よりもチラシを受け取って貰えたようです。特設ステージでは、障害の方々によるパフォーマンスが今年も賑々しく開かれ、ホームチャイムというハンドベルの練習の時に用いる鉄琴を使った珍しい演奏、そしてフォークギターの弾き語り、最後に、ラテンアメリカ諸国の音楽をベースとしたソングに16世紀、スペインで使われた弦楽器を用いたフォルクローレ演奏で締め括られた、素敵なステージでした。

今回のイベントを通じ、障害者への人権の理解がより一層深まることを願います。



ちょっと寒いけどステージは最高！

障害者差別禁止条約 in 大分

研修会に行ってきました

大石 厚生

昨年、10月23日～25日に大分でJIL(全国自立生活センター協議会)九州ブロック研修会がありました。私たち4人でその中の2日間参加しました。

各自立生活センターの事例発表を聞きました。施設から地域の中で暮らしたい人のためにILP(自立生活プログラム)を何回も行なって、またいろいろな場面に応じてロールプレイ(寸劇)をしながら、自分で自分の事に着目し課題を見つけて、その課題をILPで練習をしていくと一人暮らしができるようになっていくと言われていました。私が思ったことは、体験しながら、まずは自分の気持ちが本当に「一人暮らしをしたいのか」ということに何度も向き合う事と、そして親との距離、家族の理解・協力も必要だと感じました。

翌日は、昨年の9月に大分県で障害者差別禁止条例が、施行されていることを、詳しく説明していただきました。その条例が施行される前にはいろいろな差別があったそうで、私が一番印象に残っているのはご主人が中途障害者になり、その事が原因でご主人と別れてしまったことを後悔されているという方の話でした。

次にJILの代表の話がありました。沖縄では本島で障害者のグループを3つに分け、歩きながら署名を集めてそれぞれのゴールを目指し、それを県議会に持っていったそうです。障害当事者が中心となって啓発や運動をしていることを聞いてパワフルですごいと感じました。昼からは佐藤聡さんの話を聞いて、私が思うことは車イスが入れないお店やエレベーターがないお店はこれからど



うなるでしょう。これは障害者だけの問題ではないと言えるのではないかと思います。

国連障害者の権利条約に、採択されたことにより、今後国のレベルで障害者差別禁止法また、地方自治体のレベルで条例をつくることによって何かが変わると思います。また私は、今後世界や日本各地の現状を勉強していきたいと思います。

小規模連全体活動 「利用者交流会」に参加して

宇山 大輔

昨年の10月26日小規模連の利用者交流会があつて、作業所のみなさんで行ってきました。参加の目的は、他の作業所のことや、そこでどんな作業をしているか少しでも知る機会になればと思ったからです。

はじめの言葉や理事長の挨拶が終わった後、11時半すぎからSMAPの「世界に一つだけの花」のサビの振り付けをみんなで覚えて歌いました。歌のテンポが速すぎてついていくのが大変でした。

午後から作業所紹介があつて、一番興味を持った話は自主製品を作っている作業所があるということでした。その中の一つ太陽パンは自分たちでパンやお菓子などを作って販売していました。そして、GENKIの順番がきました。私は緊張しましたが、うまく発表できたと思います。

最後に私は、障害を持つ人がいきいきと社会でがんばっている姿を見てとても勉強になりました。



楽しかったバスハイク!



田村 綾子

昨年、11月23日バスハイクで朝倉の麒麟ビール工場へ行きました。しろはと号というリフトバスに乗る時、初めて車椅子がリフトで介助者と一緒に乗り降りができるのを知りました。バスの中では、手話でふるさとと言う歌を習ったりクイズをしたりして楽しかったです。

麒麟ビール工場のレストランに着いて焼肉をする時、焼時間が分からなくて困りました。トイレまで行く通路が狭かったけれど自分でこいで行きました。多少広さがあれば自分で行動ができる事が分かって良かったと思いました。最初に、スクリーンで工場の説明があり、昔からのポスターや工場の色んな説明が壁に掛かっていました。車椅子になって親と離れて一人で日帰り旅行に行くのが少し心配でした。これからは、いろんな事に参加をして行きたいと思いました。



メインストリート・プログラム

皆さんの要望に 応えられたかなあ!?

永松 啓子

あけましておめでとうございます。

昨年、街はクリスマスセールやお正月の買い物客でにぎわっていた12月12日(日曜日)、第3回メインストリート・プログラムでは、念願の小倉南区にある『サンリブシティ小倉で楽しく「リッチなランチ?」それとも「お手軽なランチ?」さあ、あなたは…!?』という企画を立ててみました。

普段、障害があっても公共交通機関を利用して車イスに乗って通勤をしている方もいますが、「サンリブシティ小倉」へ行くのはJR安部山駅で下車し、そこから行くのがベストだと思っていましたが、安部山駅はエレベーターが設置してありません。そこで「サンリブシティ小倉」に行くのは困難だと諦めていたが、バスの時刻表に詳しい(スタッフ)の提案や後押しもあり実施することにしました。もちろん、この企画を行なうにあたり(28番)のバスに乗って



▲ 西鉄さんとの話し合い

て下見にも行きました。それに伴い、西鉄バス営業所の方に連絡を取って11月18日、西鉄バス砂津営業所の3階で意見交換をすることになり、電動車イスに乗ったスタッフ4名と徒歩のスタッフ2名に障害のないスタッフ1名の7名で行きました。担当の方2名に、スロープバスの導入台数が何台ありますかと問いかけてみた所、バス

は11月現在、549台に対しスロープ付きバスは262台との事。また、スロープバスには2種類のスロープ付きバスがあることを教えてもらいました。それに、スロープなどの点検は2ヶ月に一度行なっており、毎日バスの運転手さんが車両の不具合は報告するようになっていきますとの事でした。その日、電動車イスに乗ったスタッフの1人がはじめてスロープ付きのバスに乗り家の近くまで帰ったそうです。

今回は、初めて集合場所を二ヶ所に設定し、小倉駅集合の参加者やボランティアの学生さんは、いつも通りに10時集合してもらい、こちらで決めた4班

メインストーリー・プログラム

に分かれてもらいました。交渉したスローバスに車イスの方と一緒に乗車し目的地のサンリブシティ小倉へ。そして、現地集合の参加者の方と11時30分に「サンリブシティ小倉の総合案内“グリーンプラザ前”」で合流し合わせて、総勢42名の方が集まってくれました。そこで申込川紙に、リッチなランチをとりたいと書いてくださった班の方には、前もって予約を入れていたので、すぐに『アレッタ』と言うバイキング方式のレストランで、おしゃべりしながら、ゆっくりランチをとってもらいました。後の3班は、それぞれ分かれて違うお店で、お手軽なランチを食べて、サンリブシティ内の中でショッピングやゲームセンターなどで、楽しい時間を過ごせたように聞きました。



私たちの班では、初めてサンリブに来たという方や何度も来ている方がいましたが、ランチを食べた後、早速、分かれて行動したいと言う方が多くいましたので、朝と同じように総合案内前のグリーンプラザ前に集まるように決めて“イザ出発…”やはり時間が足りないと言う参加者はちょっと遅くなりましたが集合時間の14時30分には間に合い一安心。そこで、配布した資料の中に入れていたアンケートに記入をして頂き、



代表の解散の挨拶のあと、現地集合の方たちと別れました。帰りは、15時前に「サンリブシティ小倉」を出て、交渉をしたサンリブシティ小倉バス停から(93番)のスローバスに乗り小倉駅前まで戻る班と、私たちの班は別に少し歩いて横代東町2丁目のバス停から(138番)のスローバスに乗り1人の参加者は勝山橋バス停で降ろしてもらおうようにして、そ

れぞれ小倉駅バスステーションに到着しました。小倉駅3階に戻って、その後、班ごとに解散をしました。

今回も、お天気に恵まれケガなども無く無事に済み、参加してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

今年もよろしくお願いいたします。

市立障害者スポーツセンターに望むこと

障害者スポーツセンターの 再整備計画・速報

林 芳 江

昨年6月に北九州市議会で障害者スポーツセンターの再整備が決定されたのを皆さんはご存知でしょうか。小倉南区春ヶ丘にあるスポーツセンターは老朽化が進み、再整備と機能アップが望まれていました。場所については今の場所と、交通の利便性が高いところへと意見も分かれていましたが、突如でてきた再整備の話は「小倉北区三郎丸のコナミスポーツクラブ跡の建物を活用し、広さは三倍になり便利な場所です」という説明で、この案は難なく市議会を通過しました。ところがこの建物は、元々スポーツ施設という一致点以外はバリアフリーとは程遠く、公共交通機関も便利ではない状況でした。

建物は地下を含めて4階建て、地下は駐車場、1階は更衣室・トレーニング室・スタジオ・プール等、2階は卓球室・多目的室等、3階は体育館という設備予定です。しかし、建物の構造上地下が半分せり出して、1階の玄関までに階段が十数段あります。さらに1・2階は各部屋の入り口に段差があり、廊下からスロープで段差解消する案から提示されました。これでは建物や各部屋に入るだけでトレーニング状態、笑い話にもなりません。スロープは場合によっては転倒を呼ぶバリアにもなるという認識から関係者で確認しなくてはいけませんでした。そんな厳しいところから始まっている再整備計画ですが、評価できる点は改修の設計案を行政と設計会社と当事者代表で煮詰めて行ったところでしょうか。そもそも無理のある計画ですから、案を練るのはとても大変でしたが、不特定多数の障害者を含めた市民が使う建物です。目先での改修計画では困ります。



1月中旬以降に再整備計画案の説明会が予定されています。スポーツをする方もそうでない方も、スポーツだけではない障害者の社会参加の拠点となる施設であり、仲間や活力を培うための公共施設です。ぜひ関心を持って意見を障害福祉課に皆さんも届けてください。

← 新障害者スポーツセンター(設計・改修中)

夢のホームグラウンドへ

—障害者スポーツセンターに望みたいこと—

佐藤 カヨ子

障害を持つ人にとって、スポーツは単なる運動や楽しみというだけではなく、大きな、そして多様な意味を持っています。私のスポーツ経験（主に水泳）を述べてみたいと思います。

先天性の障害を持ち、スポーツに縁のなかった私が水泳を始めたのは、大学の体育の授業でした。社会人学生ですから、一般の学生に比べて30代半ばと年齢が高いのは仕方ないにしても、私は両足に補装具・松葉杖で立っているのがやっとの障害者です。その頃は体育が必修で、大学に入ることはできたけれど、卒業はできないかも知れないと思っていた時、体育の教授が水泳を教えてみたいと言われ、断れば単位が貰えないかもと考え、参加しました。

最初は水の中で立つことができず、大変でした。何かに掴まっていなければ沈んでしまいます。抱き抱えるようにして教えて貰って、15m程泳げるようになり、体育の授業が終わってももっと泳ぎたいと思い、授業の会場だったスイミングスクールに相談してみました。若いコーチでは教えられないだろうからと、スクール長自ら、週に1回マン・ツーマンで教えて下さいました。水への恐怖がなかなか消えず、平泳ぎから始めて25m泳ぐのに7か月程掛かりましたが、その後はスムーズでした。水泳をするようになってから、体力もつき、仲間もできて、全国大会等にも参加するようになりました。水泳がリハビリテーション効果、精神のリフレッシュ、そして何よりも社会参加のきっかけになった訳です。水泳は生涯スポーツであり、ずっと続けたい泳げない人たちにも教えてあげたいと思っていますが、最も困るのが練習場所です。松葉杖の頃はまだしも、車椅子を使用するようになってからは、民間のプールは殆ど使えず、障害者スポーツセンターのプールは屋外で夏の2か月間のみ。市営プールも単独での使用を断られたり（障害者は付添がいなければダメとのこと）、プールが15mと短くて大会の練習には適さない、遠くて行くのに時間が掛かるなど、口々練習したくても程遠い現状です。

障害者スポーツセンターが移転して新しくなるとのことですが、アスリートを育成し、応援する機能を持った障害者スポーツのホームグラウンドであってほしいと願います。

介助事業所GENKI

介助事業所GENKI



新年明けましておめでとうございます。皆さんは、よい年を迎える事ができましたか？

今年の干支は『卯』 皆さんは知っていますか？・・・ウサギは、ご機嫌斜めな時『ブーブー』って泣くって事！ウサギは声を出さないと考えていたのは・・・私だけ？

さてさて、今回新年一発目！！という事でGENKIで働くヘルパーさんの新年の抱負をここで紹介したいと思います。



ヘルパーを代表して今年の抱負

林ヘルパー

無理をせず、
頑張っていきたいです



笑顔が素敵な K.Kヘルパー

断捨離の実践！！
健康で事故のないよう一年
笑顔で過ごしたいです！

前ヘルパー

初心に戻って
がんばります！

榎園ヘルパー

清く正しく美しくそして...
痩せるぞ～(^0^)/

小尻ヘルパー

美味しくかつ、栄養のバランスのとれた食事が
提供出来るような管理栄養士になれるよう勉強
頑張ります！！
そして、やりたい事にどんどん挑戦したいです



来年にかけて制度がどんなふうが変わっていくのか、また新しいヘルパーとの出会いも少なくなっていますが、一同で努力していきます。

今年も介助事業所GENKIをよろしくお願い致します。

介助事業所 G E N K I



松本 香世子

今回のテーマを何にしようかなと考えていた時・・・

編集長より、「漬物特集はどう？」と・・・「え・・・っ！」と思ったのですが、普段何気なく口にしている漬物が、栄養のあるものなのか、ちょっと気になり、漬物について調べる事にしました。早速紹介したいと思います。

低カロリーで 食物繊維たっぷり

漬物は、熱に弱いビタミンCなども比較的、分解されにくいという特徴があります。食物繊維が豊富なおなかに、油を使っていないので低カロリー。

漬物の塩分は、種類によっても異なりますが、塩漬けの場合、100gあたりの塩分は2g程度が目安です。

塩分が気になる場合は、漬物を水洗いしたり、水につけたりして塩出ししてから食べるとよいそうです。

漬物に含まれる 動物性乳酸菌のパワー

乳酸菌とは、糖を発酵して乳酸などの有機酸を生成する菌のことで、植物生まれの乳酸菌も存在します。植物性乳酸菌は、動物性乳酸菌と比べると酸やアルカリそして温度変化にも強く、過酷な環境条件でも、生息できるとされています。そのため植物性乳酸菌は加熱されても比較的生きて腸の奥まで届きやすいのです。腸内の善玉菌が増えておなかの調子が整うだけでなく、善玉菌の働きでからだの免疫機能も高まり健康増進に役立つとされています。

からだに嬉しい栄養素

ぬか漬けに使われる糠には、植物性乳酸菌だけでなく、ビタミンBなどもたっぷり含まれています。つまりぬか漬けはビタミンBやCなど美肌によいとされる成分を手軽に摂れる食べ物なのです。また漬物は、野菜に含まれている食物繊維も乳酸菌と一緒に摂ることができます。

食物繊維を多くとると、乳酸菌の働きがさらに活発になり、乳酸菌+食物繊維のダブルパワーでおなかの調子を整える働きがあります。漬物は、カラダにとってうれしい栄養素がたっぷり入った健康食品でもあるのです。

もっと積極的に漬物パワーを、毎日の生活に取り入れたいですね。食べ過ぎには、気をつけてください。

活動報告

10月

- 1日 アルモニーサンクオープン記念式典 (林)
- 4日 北九州市障害者自立支援協議会・事業者研究会 (林)
- 5日 あかつき会 評議委員会 (林)
- 11日 イオン戸畑幸せの黄色いレシートキャンペーン

贈呈式

- 15～17日 熊本ピアカウンセリング長期講座 (林)
- 21日 身体障害者福祉協会 九州大会 (林)
- 26日 北九州小規模連 利用者交流会
- 23～24日 J I L九州ブロック研修会 (林・大石・小川・藤下)
- 29日 障害者スポーツセンター検討会 (林)



11月

- 15日 北九州市手をつなぐ育成会研修生来所
- 16日 福祉有償運送検討会 (林)
- 17日 街づくりネットワーク
- 18日 スロープバスの練習試乗
- 20日 障団連、要望書検討会 (永松)
- 23日 障団連バスハイク (小川・田村・大村)
- 26～28日 広島ピアカウンセリング集中講座 (林)

12月

- 4日 障団連、障害者週間啓発事業 参加
- 9日 小規模連定例会
- 12日 第3回メインストリート・プログラム
- 16日 障団連 常任委員会 (林)
- 21日 障団連 要望書に関する意見交換会
- 24日 福祉有償運送検討会 (林)
- 25日 地域フォーラム実行委員会 (春日) (林)



毎月第一木曜日 障団連人権部会

毎月11日 幸せの黄色いレシートキャンペーン

10月15日～12月3日

概ね隔週金曜障団連啓発事業実行委員会 (小川・永松)

御寄付をいただいた皆様

2010年12月31日現在

[個人] 上田通子さん 匿名 書き損じはがき

[企業・団体] やぼ天 (城野ダイエー内) 福岡県共同募金会
歳末たすけあい見舞金

募金・寄付金に御協力ありがとうございます

募金や寄付金にご協力いただいています皆様に深くお礼申し上げます。

北九州自立生活センターは、任意団体として活動を始めて、皆様のお力添えをいただきつつ、今やNPO法人として事業を取り組むに至りました。この間何かと駆け足で進めてきたこともあり、未整備のため皆様へ失礼やご迷惑をおかけしていることがございます。深くお詫び申し上げ、ひとつひとつ改善に努めてまいりますので、ご容赦と引き続きのご支援をお願い申し上げます。募金箱の設置につきましても改めてお願いをして参りますので、よろしく願い申し上げます。また新規でご協力いただける方がありましたら、お手数ですがお知らせいただけるとうれしく思います。一人でも多くの方々に、「共に支えあって生きる」ということにご賛同いただけますよう重ねてお願い申し上げます。

編集後記

新しい年になりました。代表のあいさつにもありましたように、今年には障害福祉にとって大切な一年になると思います。

今後とも障害者福祉や当センターで行なっている事業など記事として、会報GENKIに掲載しますのでご覧ください。

また、当センターのホームページができましたので、一度アクセスして見て下さい。

ホームページアドレスは

<http://ilckitakyushu.jimdo.com/>

大石

会員を募集しています!

賛助会員	正会員	購読会員
年会費 5000円 (一口) 資金面で協力を していただける方	年会費 3000円 積極的に活動に参加 していただける方	年会費 200円 (送料込) 定期的に本誌をご購読 していただける方

センターの活動にご協力いただける方を募集しております。また、会費は私たちの大きな資金源の1つとなっております。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

※会員の方には、この会報「GENKI」を3か月に1度お届けしています。
入会方法は、このページの末をご覧ください。

寄付のお願い

私ども特定非営利活動法人北九州自立生活センターは、障害者が自立するために色々な事業を行っております。その事業を行うため、皆様方に寄付をお願いしております。施設から地域へ出てくる障害者が少しずつ増えていきます。その人達の支援をするためにも資金が必要となっております。より多くの障害者が地域でありのままの暮らしが出来るように、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ご入会、ご寄付は、当センターに御来所していただくか、郵便振替または、銀行振込みをご利用いただければ幸いです

■郵便振替の方は

口座番号：01720-1-25526

■銀行振込の方は

福岡銀行小倉支店 普通2345474

西日本シティ銀行室町支店 普通1465622

◆講座名義人はともに

(代表) 特定非営利活動法人 北九州自立生活センター



ご協力を
お願いします